

日本株ロングショート戦略ファンド 愛称「いつつぼし」

追加型投信/国内/株式/特殊型
(ロング・ショート型)

作成基準日: 2026年8月31日

ファイブスター投信投資顧問株式会社

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

運用実績等

ファンド概要

設定日	2016/06/30
信託期間	原則 無期限
決算日	毎年1月、4月、7月、10月の各25日(年4回)
信託報酬率	2.365% (税抜 年2.15%)
基準価額	12,089円
純資産総額	949,372,008円

※決算日が休業日の場合は翌営業日となります。
※信託報酬率2.365%(税込)の他に運用成果に応じた実績報酬がかかります。

期間別騰落率

	当ファンド	参考指数
過去1ヶ月	+2.27%	+3.85%
過去3ヶ月	+1.67%	+5.17%
過去6ヶ月	-1.01%	+6.77%
過去1年	+18.05%	+38.28%
過去3年	+40.39%	+91.24%
設定来	+101.58%	+321.36%

※税引前分配金を全額再投資したものと計算しています。

※参考指数は、TOPIX(東証株価指数 配当込み)を指します。

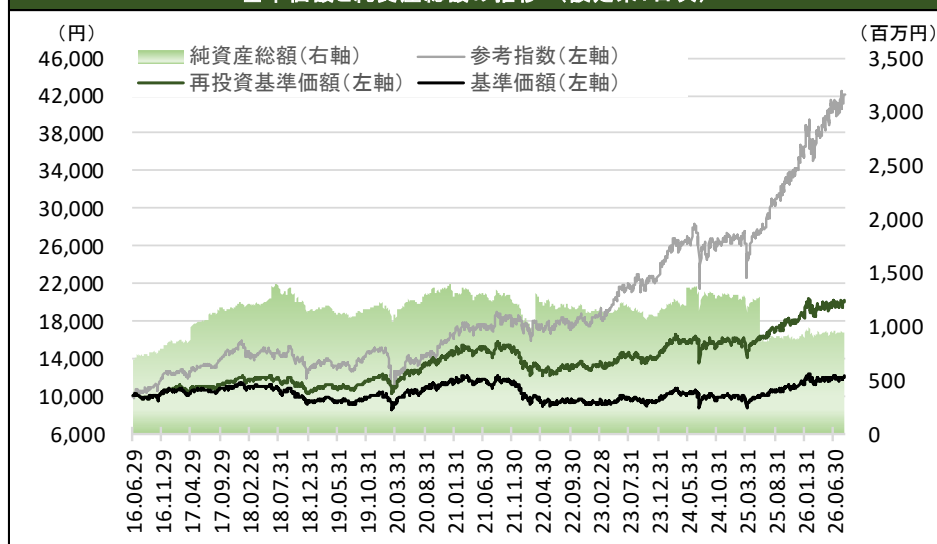
TOPIX(東証株価指数)は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークです。昭和43年(1968年)1月4日の時価総額を100として、その後の時価総額を指数化したものであり、日本経済の動向を示す代表的な経済指標として用いられるほか、ETFなどの金融商品のベンチマークとして利用されています。TOPIXは、JPX総研又はJPX総研のグループ会社の知的財産であり、TOPIXの算出、数値の公表、利用などTOPIXに関する権利はJPX総研又はJPX総研のグループ会社が所有しています。

分配実績(1万口当たり、税引前)

設定来合計	5,250円
第38期(2026年01月26日)	75円
第39期(2026年04月27日)	75円
第40期(2026年07月27日)	75円

※直近3期分

基準価額と純資産総額の推移(設定来: 日次)



※基準価額および再投資基準価額は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。詳細は後記の「ファンドの費用」をご覧ください。

※再投資基準価額の推移は、税引前分配金を全額再投資したものととして算出しているため、実際の受益者利回りとは異なります。

※参考指数は、ファンド設定日前日のTOPIX(東証株価指数 配当込み)を10,000とした指数を使用しています。

資産構成

日本株ロングショート戦略マザーファンド	98.71%
現金など	1.29%
合計	100.00%

※マザーファンドの受益証券の組入比率は、通常の状態では高位に維持することを基本としますが、市況動向および資金動向などにより、異なる場合があります。

※追加設定の計上タイミングと投資対象の購入処理等のタイミングのずれ等により、比率が100%をこえる場合があります。

ハイ・ウォーター・マーク

次回計算期間の終了日まで	11,820円	※決算日前営業日の公表基準価額が翌期のハイ・ウォーター・マークに更新されます。
--------------	---------	---

※決算日に収益分配金が発生した場合には、決算日前営業日の公表基準価額から収益分配金を控除した価額が、翌期のハイ・ウォーター・マークとなります。

※信託報酬のほか、実績報酬を設けており、超過収益が発生した場合には収益の22.0%(税抜20%)が各決算日および償還時に支払われます。なお、実績報酬は超過収益に応じて発生するため、実質的な数値を表示することはできません。

※計算期間中にファンドの解約をした場合には、解約価額(基準価額公表から信託財産留保額を控除した額)が既に実績報酬を含んで算出されておりますので、追加で実績報酬が発生することはありません。



日本株ロングショート戦略ファンド 愛称「いつつぼし」

追加型投信/国内/株式/特殊型
(ロング・ショート型)

作成基準日：2026年8月31日

ファイブスター投信投資顧問株式会社

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

日本株ロングショート戦略マザーファンドの状況

当ファンドは、主として日本株ロングショート戦略マザーファンド(以下、「マザーファンド」といいます。)の受益証券を通じて、わが国の金融商品取引所上場株式(上場予定を含みます。)に投資を行い、株式ロング・ショート戦略での絶対的リターンにより、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。以下は、マザーファンドの運用状況になります。

当月末のポジション状況

エクスポージャー	ロング・ポジション	ショート・ポジション
L/S エクスポージャー	97.75%	-0.28%
グロス・エクスポージャー	98.03%	
ネット・エクスポージャー	97.47%	

流動性	ロング・ポジション	ショート・ポジション
1日間	99.24%	100.00%
3日間	99.77%	100.00%
5日間	100.00%	100.00%

※流動性は、25日平均出来高の20%を売買することを前提として、保有するポジションを全て解消した場合にかかる目安を表しています。

保有銘柄数	ロング・ポジション	ショート・ポジション
139 銘柄	138 銘柄	1 銘柄

※保有銘柄数は、組入れの株式と上場投資証券の数を表示しています。

時価総額別	ロング・ポジション	ショート・ポジション
Mega (≥1兆円)	45.08%	-0.19%
Large (2000億円-1兆円)	31.57%	0.00%
Mid (1000-2000億円)	6.99%	0.00%
Small (200-1000億円)	12.64%	0.00%
Micro (≤200億円)	1.46%	0.00%
株価指数先物等	0.00%	-0.09%

銘柄別組入れ上位5銘柄						
ロング・ポジション					ショート・ポジション	
銘柄コード	市場	銘柄名	業種等	純資産比	業種等	純資産比
1	8053	プライム 住友商事	卸売	2.09%	化学	-0.19%
2	9435	プライム 光通信	情報通信	2.06%	株価指数先物等	-0.09%
3	7388	プライム FPパートナー	保険	1.93%	---	---
4	8058	プライム 三菱商事	卸売	1.92%	---	---
5	8766	プライム 東京海上ホールディングス	保険	1.86%	---	---

※上記内容は、マザーファンドの組入銘柄の紹介を目的として作成しましたが、記載銘柄の推奨を行うものではありません。
※上記内容は、作成基準日における情報を元に作成していますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。
※当ファンドでは銘柄入替を行うことがあるため、現在の銘柄と異なる場合があります。
※業種については、東証33業種をもとに分類しております。

日本株ロングショート戦略ファンド 愛称「いつつぼし」

追加型投信/国内/株式/特殊型
(ロング・ショート型)

作成基準日：2026年8月31日

ファイブスター投信投資顧問株式会社

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

マンスリーコメント

市況概況

日本株については、日経平均株価+3.0%、TOPIX+3.8%、東証グロース市場250指数+18.4%と、中小型株の上昇を伴う形で堅調に推移しました。

東証33業種中、値上がりセクター23、値下がりセクター10と、約7割のセクターが値上がりし、TOPIX構成銘柄1,636社のうち、上昇1,217銘柄、下落413銘柄と、個別では74%の銘柄が上昇しました。

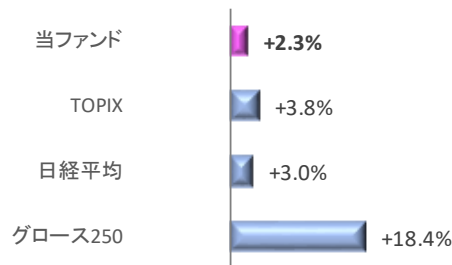
月初は、日米協調為替介入による円高進行で輸出関連株が下落しましたが、その後は米株高を背景に東京市場でもAI・半導体関連株が上昇しました。中旬は、米利上げ観測の後退を受けてAI・半導体関連株が堅調となるなか、銀行株や自動車株も買われ、TOPIXは14日に終値ベースの最高値を更新しました。下旬は、中東情勢や金利動向を巡る不透明感から、日経平均株価は一進一退となりましたが、金融株や自動車株が堅調となり、TOPIXは底堅く推移しました。

月を通じて上昇基調を維持した一方、AI関連銘柄を中心に日々の値動きが大きくなり、市場参加者の確信度が揺らぎやすい局面であったと認識しています。指数主導の上昇が続く中で、個別銘柄選別の重要性が高まったと見ています。

AI・半導体関連については、設備投資の規模や生成AIの収益回収時期をめぐる不透明感が残り、将来の業績予想を現在のファンダメンタルズだけで見通しにくい状態にあります。特に、AIインフラ需要を前提にした銘柄群では、好材料に対する株価反応が短期化し、前日までの見方が翌日に反転するような動きも見られました。これは、異なる投資家間の意見対立というより、同じ投資家の中でも確信が日々揺れていることを示しているという意味で、大変不安定性が高い危険な状況と認識しています。

一方で、AI以外の領域では、生活防衛型の小売、グローバルに競争力を持つ消費関連、総合商社、銀行、不動産など、個別の事業構造や資本活用力に基づく評価余地が残る銘柄群があると見ています。夏場は海外投資家を含め市場参加者が薄くなりやすく、短期的な株価水準を過度に意識しないことも重要であったと認識しています。

月間騰落率



※上記記載の株価指数は配当込み指数ではありません。
※当ファンドの表記は、再投資基準価額ベースです。

日本株ロングショート戦略ファンド 愛称「いつつぼし」

追加型投信/国内/株式/特殊型
(ロング・ショート型)

作成基準日：2026年8月31日

ファイブスター投信投資顧問株式会社

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

マンスリーコメント

運用概況

当月の当ファンドの基準価額は、前月末比+2.27%の上昇率となりました。

まず、月中の日本株の動きについては、月初では日経平均株価で60,000円から65,000円のレンジでの下値リスクが残存する展開を予想していたのに対し、8月実績（小数点以下切り捨て）は、安値62,703円、高値69,608円、終値66,311円と、想定を上回る値動きとなりました。

当月の日本株のセクター別パフォーマンスは、騰落率上位が、サービス業、海運業、非鉄金属で、保険業、ガラス・土石製品、倉庫・運輸関連業がワーストパフォーマーとなりました。スタイル別に見ると、大型グロース優位の中で、小型株がバリュー株を中心として相対的に堅調となりました。ファクター別に見ると、低位株が好調な中で、高EPS（1株当たり利益）成長、低配当利回り、高ROE（自己資本利益率）というグロース的要因が共存する珍しい形となりました。これまでのAI・半導体相場の中で出遅れていた銘柄群が上昇したことで、ファクター的個性が薄まったと考えております。

その中で、当ファンドでは、前月に引き続き、AI半導体関連銘柄と機械セクターの投資比率を低位にして、AI関連銘柄以外の中で、事業の持続性、資本効率、価格決定力、バリュエーションの妥当性を確認しながら、割安・有望と考えられる銘柄の保有比率の高位維持を意識的に行いました。マザーファンドの保有銘柄数は145銘柄で、市場別ではプライム市場が中心です。

業種別では、情報・通信、小売、卸売、銀行、電気機器を上位に組み入れています。情報・通信では、顧客基盤や事業モデルの耐久性を確認しながら、AIそのものへの単純なベットではなく、AIによる外部環境変化のなかで生き残る企業を選別する姿勢を重視しています。小売では、実質所得への圧力が続くなかで、プライベートブランドや低価格訴求によって消費者の生活防衛需要を取り込める企業に注目しています。

上位銘柄では、光通信、パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス、ペイカレント、住友商事、花王などを組み入れています。光通信については、高成長のコア事業を主としつつ、資本コストを上回る投資規律に基づく投資事業も併せ持つ企業として位置付けています。パン・パシフィック・インターナショナルホールディングスや花王については、消費環境が厳しい局面でも相対的に事業基盤を維持しやすい銘柄として見ています。

総合商社については、単なる株主還元ではなく、資本をどの成長機会に振り向けるかという観点を重視しています。住友商事、三井物産、丸紅などは、資源、非資源、海外事業を含む幅広い投資機会を持つため、金利上昇局面でも資本活用力を確認しながら評価する対象としています。銀行についても、金利環境の変化が利ざや改善につながる可能性を踏まえつつ、信用コストや保有資産の質を併せて確認しています。

その戦略自体は正しかったのですが、AI半導体関連銘柄、自動車、保険、不動産などの下落率が足を引っ張る形になりました。その結果として、TOPIXを若干下回りましたがプラスリターンを計上できました。

日本株ロングショート戦略ファンド 愛称「いつつぼし」

追加型投信/国内/株式/特殊型
(ロング・ショート型)

作成基準日：2026年8月31日

ファイブスター投信投資顧問株式会社

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

マンスリーコメント

今後の運用方針

7月からAI関連銘柄のボラティリティが高まり、調整色を強める局面が増えております。現在のAIを巡る状況については、単なる「技術革新」を超えた30年に一度、ないしは数百年に一度の「革命」的動きと捉えられます。しかし、最近では、米国製の生成AIとの比較で価格が10分の1以下である中国製AIの台頭で巨大な設備投資の回収に疑念が生じ始めたと共に、ハイパースケーラーのフリーキャッシュフローがマイクロソフト以外はマイナスに転じております。ハイパースケーラーを中心とした巨額の資金調達ニーズを通じた世界的金利上昇、膨大な電力需要といった外部環境への負の側面も目立ち始めています。

8月は日本において長期金利上昇が進み、9月1日には節目の3%を突破しました。高市内閣による積極財政、消費税減税といった矛盾した政策と円安是正に向けた日銀による複数回の利上げ織り込みを背景にしていると推測され、その流れが変わることは期待し難いことから、今後も長期金利の動向には注意が必要です。

以上を勘案して、当月は、ドル円150円から165円を前提に、日経平均株価で60,000円から67,000円のレンジでの、下値リスクを意識した展開を予想します。

今後の運用に際しては、①AI・半導体相場の行方、②AI以外の優良銘柄選定、③日本及び世界全体の金利上昇、が重要になると考えます。

まず、AI・半導体相場の持続性を慎重に見極めて参ります。具体的には、ハイパースケーラーを中心とするAI関連の設備投資の成長性と、ユーザー側の需要の伸長により投資資金の回収がどの程度の時間軸で実現するか、の2点が引き続き確認課題です。クレジット市場では、ハイパースケーラーや周辺企業の資金需要が金利やクレジットスプレッド（国債利回りに対する社債等の上乗せ利回りで、発行体の信用力や社債の需給に応じて変動する）へ影響を及ぼしつつあるため、株式市場だけでなく債券市場のシグナルも重視して参ります。

AI以外の領域では、引き続き評価が十分に反映されていない業種・銘柄を中心に選別していく方針です。特に、以下に述べる金利上昇リスクの結果として生じる「資本コストの上昇」を吸収できる収益性、価格決定力、資本余力を持つ企業については、相対的な評価が高まりやすいと見ています。

金利上昇のうち、まず国内金利については、長期金利が名目成長率を明確に上回る局面では株式全般の上昇余地が制約されやすくなるという考え方を重視します。現在3%程度と目される日本の名目成長率との比較で、長期金利は既に3%を超えてきました。長期金利が上昇基調を続け、名目成長率を明確に上回る局面では、現金比率の引き上げ、ディフェンシブ性の高い銘柄へのシフトなど、思い切ったリスク回避策も必要と考えられます。

以上の通り、株式運用を巡る外部環境リスクは、近年になく高まっていると思われるので、リスク管理重視の運用を徹底して参ります。歴史に学びながらも、各種予兆を迅速に認識し、常に過去とは異なる事態が起こりうることを意識して、独自思考の深化と、フォワードルッキングの姿勢の強化に努めて参ります。

日本株ロングショート戦略ファンド 愛称「いつつぼし」

追加型投信/国内/株式/特殊型 (ロング・ショート型)

作成基準日：2026年8月31日

ファイブスター投信投資顧問株式会社

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファンドの特徴

★★★★★ ファンドの目的

当ファンドは、絶対収益の獲得を目指します。

当ファンドは、主として日本株ロングショート戦略マザーファンドの受益証券を通じて、わが国の金融商品取引所上場株式(上場予定を含みます。)に投資を行い、「ロング・ショート戦略」を通じて、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。

★★★★★ ファンドの主な特色

当ファンドは、「ロング・ショート戦略」を通じて、絶対収益の獲得を目指す日本株ファンドです。

当ファンドは、わが国の金融商品取引所上場株式(上場予定を含みます。)約4,000社から広くロング(買建て)とショート(売建て)の投資対象を選ぶことでリターンの極大化を目指します。具体的には1,000社を超えるユニバースの中から、ボトムアップリサーチによる個別企業分析を通じ、ファンドサイズに応じた最適な投資銘柄を選定し投資を行います。株価指数先物取引等も相場環境に応じて効果的と思われる局面で利用する場合があります。また、特定のベンチマークは設けずに、積極的に絶対収益の獲得を目指します。

より多くの投資テーマを追い求め、あらゆるセクターを投資対象にします。

ファンドマネージャーの「元金融アナリスト」という強みを生かして、金融・不動産セクターを最重要セクターと位置づけつつも、あらゆる投資テーマを追いかけける中で全セクターを投資対象にします。したがって、バリュー株、グロース株のいずれも投資対象になります。投資テーマは、世界的なテールリスクの拡大、商品サイクルの短期化、金融市場の不安定性、技術革新の移り変わり等、様々な角度から貪欲に追及していきます。そうして得られた投資テーマに基づいて、最適なセクター・投資対象を抽出し機動的な投資を継続的に行います。

中長期投資を主眼としながらも、短期的な投資リターンの極大化という観点も取り入れた運用を心がけます。

中長期投資は、「大局的な企業価値分析に基づく投資戦略の王道」と「短期投資の積み重ね」という二つの側面を有しています。前者の観点はもちろんのこと、これまで軽視されがちであった後者の観点も加味し、いかなる相場においても貪欲にリターン確保を目指すべく、必要であれば短期投資と目されるような機動的な売買も行います。

銘柄の選択や入れ替えを機動的に行います。

日次ベースでの最適ポートフォリオの累積が中長期の最適ポートフォリオ形成に繋がるとの信念の下、銘柄入れ替えは機動的に行います。例えば、投資収益機会が大きいと目される局面では、大胆にポートフォリオの拡張(投資銘柄数や一銘柄当たりの投資額の引き上げ)を行う一方、金融市場が不透明性を帯びた場合においては、迅速にポートフォリオの縮小(ディフェンシブ銘柄への入れ替えや総投資額の引き下げ)を行い、日次ベースで最適なポートフォリオの構築を目指します。

★★★★★ リスク面への配慮

「分散投資」の徹底

原則として、ロング・ポジションで100銘柄～200銘柄程度、ショート・ポジションで50銘柄～100銘柄程度を保有します。これにより、銘柄分散を通じた最も基本的な意味でのリスク低減を図ります。加えて、セクター分散、投資テーマ内での銘柄分散、地域分散など、多様な観点からの分散を通じたリスク極小化を目指します。

各種リスクへの対処

- 日本株投資においては、他国の株式投資に比して、地震リスクを筆頭とした災害リスクへの備えがより強く求められます。特にロング・ポジション銘柄の選定に際し、災害リスクを常に念頭に置いたポートフォリオの構築を目指します。
- ボラティリティ(株価変動率)が高い銘柄(中小型株が典型)への買いに際しては、株価下落の可能性の高い類似銘柄を空売りするなどして、予想外の株価の上下動への備えを高めます。
- 日本の財政問題を常に意識したポートフォリオの構築(例えば金利上昇リスクへの配慮)を心がけます。

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行えない場合があります。

日本株ロングショート戦略ファンド 愛称「いつつぼし」

追加型投信/国内/株式/特殊型
(ロング・ショート型)

作成基準日：2026年8月31日

ファイブスター投信投資顧問株式会社

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

投資リスク等

基準価額の変動要因

信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者に帰属します。

当ファンドは、投資信託証券(マザーファンド)への投資を通じて値動きのある有価証券などを実質的な投資対象としますので、当ファンドの基準価額は変動します。また、組入れられた有価証券等の価格の下落や、有価証券等の発行体の財務状況や業績悪化等の影響により、基準価額が下落し、損失を被る場合があります。従って、**受益者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金とは異なります。**

主なリスクは以下の通りです。

有価証券の株価変動リスク

当ファンドは、実質的に国内の株式等を主要投資対象としますので、当ファンドの基準価額は当該株式等の価格変動の影響を大きく受けます。株式等の価格は、国内外の政治・経済情勢、発行会社の業績・財務状況の変化、市場における需給・流動性による影響を受けて変動します。従って、株式等の予想外の価格変動があった場合には、当ファンドに重大な損失が生じる場合があります。当ファンドでは、中小型株式や新興企業株式に投資する場合がありますが、中小型株式や新興企業株式の株式は、大型株に比べ株価が大幅に変動することがあります。

「ロング・ショート戦略」固有のリスク

当ファンドが投資する投資信託証券(マザーファンド)は、株式のロング(買建て)のほかに、株式のショート(売建て)を行いますので、ロングした株式の価格が下落した場合、またショートした株式の価格が上昇した場合には、当ファンドの基準価額にマイナスの影響を及ぼし、場合によっては基準価額が大幅に下落する場合があります。また、ショートの特性上、損失が想定以上になることもあります(また、株式をショートするにあつては、借入コストが発生します)。

流動性リスク

市場取引量の急激な増大、市場規模の縮小、市場の混乱等の影響により、注文時に想定していた価格と大きく異なる価格で売買が成立する可能性があります。従って、組入れ有価証券等の予想外の流動性があつた場合には、当ファンドに重大な損失が生じる場合があります。一般に中小型株式や新興企業株式の株式は、市場規模や取引量が少ないため、このような状況に陥る可能性が高い場合があります。

信用リスク

当ファンドは、投資信託証券(マザーファンド)への投資を通じて、実質的に投資している有価証券の発行体において、経営不振、その他の理由により債務不履行が発生した場合、またはそうした事態が予測される場合等には、当該発行体が発行する有価証券の価格は大きく下落し、基準価額が値下がりする場合があります。

解約による資金流出に伴うリスク

一部解約金の支払資金を手当てするために、当ファンドが投資する投資信託証券(マザーファンド)において、組入れている有価証券等を大量に売却する場合があります。この場合、市場規模や市場動向によっては、有価証券等を当初期待された価格で売却できない場合があり、当ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

※(ご注意) 以上は、基準価額の変動要因であり、変動要因はこれに限られるものではありません。

日本株ロングショート戦略ファンド 愛称「いつつぼし」

追加型投信/国内/株式/特殊型
(ロング・ショート型)

作成基準日：2026年8月31日

ファイブスター投信投資顧問株式会社

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ご留意点等

その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ制度)の適用はありません。
- 当ファンドは、預金や保険契約ではありません。また、預金保険機構及び保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通じて購入していない場合には、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンド購入価額によっては、分配金の一部または全部が実質的には元本の一部払戻に相当する場合があります。

分配方針

毎年4回(1月、4月、7月、10月の各25日。ただし、休業日の場合には翌営業日とします。)決算を行い、以下の方針に基づいて収益の分配を行います。

- 分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- 分配金額は、委託会社が基準価額水準・市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配を行わないこともあります。
- 収益分配に充てず信託財産内に留保した利益について、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、運用を行います。

※将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。

当資料の留意点

- 当資料は、ファイブスター投信投資顧問株式会社が作成した販売用資料であり、法令に基づく開示書類ではありません。
- 当資料に記載の過去の運用成績、運用内容は将来の運用成果、運用内容を保証あるいは示唆するものではありません。
- 当資料は、原則として表示桁数未満を四捨五入しているため合計の数値とは必ずしも一致しません。
- 当資料は、ファイブスター投信投資顧問株式会社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。記載された市況や見通し等は作成日時点のものであり、将来の株価等の動きやファンドの将来の運用成果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更される場合があります。
- 当資料をご覧いただくにあたっては、「投資リスク」、「その他の留意点」、及び「分配方針」を必ずご確認ください。
- お申込の際は、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」を必ずご確認のうえ、お客様ご自身でご判断ください。



日本株ロングショート戦略ファンド 愛称「いつつぼし」

追加型投信/国内/株式/特殊型
(ロング・ショート型)

作成基準日：2026年8月31日

ファイブスター投信投資顧問株式会社

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

お申込メモ

購入単位	1口または1円単位として販売会社が定める単位 ※詳しくは販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込日の基準価額とします。
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	1口単位として販売会社が定める単位 ※詳しくは販売会社にご確認ください。
換金価額	換金(解約)受付日の基準価額に信託財産留保額を控除した額
換金代金	原則として換金(解約)受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として午後3時30分までに、販売会社が受付けた分を当日のお申込み分とします。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、1億口または1億円以上の換金(解約)請求は、正午までをお願いします。
購入・換金・申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金(解約)の受付を中止すること、および既に受付けた購入・換金(解約)申込みの受付を取消す場合があります。
信託期間	原則として無期限です。
繰上償還	委託者は、純資産総額が1億円を下回ったときには、受託者と合意の上、信託期間を繰上げて償還させる場合があります。また、この信託契約を解約することが受益者のために有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が生じた場合には、受託者と合意の上、信託期間を繰上げて償還させることができます。
決算日	毎年4回(1月、4月、7月、10月の各25日。ただし、休業日の場合には翌営業日)
収益分配	年4回、毎決算時に収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。
信託金の限度額	ファンドの信託金の限度額は1,000億円です。
公告	電子公告により行ない、委託会社のホームページに掲載します。 ホームページアドレス https://www.fivestar-am.co.jp なお、やむを得ない事由により公告を電子公告によって行なうことができない場合には、公告は日本経済新聞に掲載します。
運用報告書	毎年4月、10月の決算時および償還後に交付運用報告書を作成し、知れている受益者に交付します。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。 当ファンドは、NISAの対象ではありません。 配当控除の適用があります。 益金不算入制度の適用はありません。

日本株ロングショート戦略ファンド 愛称「いつつぼし」

追加型投信/国内/株式/特殊型
(ロング・ショート型)

作成基準日：2026年8月31日

ファイブスター投信投資顧問株式会社

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用				
購入時手数料	購入時手数料はかかりません。購入時手数料は、販売会社による商品・投資環境の説明および情報提供、並びに販売の事務等の対価です。			
信託財産留保額	● 一部解約申込日の基準価額から、当該基準価額に0.3%の率を乗じて得た額とします。 ● 信託財産留保額は、ご換金(解約)額から控除され、投資信託財産に組入れられます。			
投資者が信託財産で間接的に負担する費用				
運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に 年2.365%(税抜 年2.15%) の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに、信託財産から支払われます。			
	当ファンドの運用管理費用 (信託報酬)(年率)		年2.15%	運用管理費用＝日々の純資産総額×信託報酬率
	配分	委託会社	年1.60%	委託した資金の運用の対価
		販売会社	年0.50%	購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
		受託会社	年0.05%	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
※表中の率は税抜きです。別途、消費税がかかります。 ※信託報酬のほかに、実績報酬(ハイ・ウォーター・マーク方式)を設けており、超過収益が発生した場合には収益の22.0%(税抜20%)が各計算期間末および償還時に支払われます。なお、当該費用は超過収益に応じて発生するため、実質的な数値を表示することができません。				
その他の費用・ 手数料	以下の費用・手数料等は、信託財産中から支払われます。			
	法定書類の作成・印刷・交付に係る費用	有価証券届出書、有価証券報告書および臨時報告書(これらの訂正に係る書類を含みます。)、運用報告書の作成、印刷および提出に係る費用		
	監査費用	監査法人等に支払う信託財産の財務諸表の監査に要する費用		
	信託財産の計理業務およびこれに付随する業務に係る費用	信託の計理業務(設定解約処理、約定処理、基準価額算出、決算処理等)およびこれに付随する業務(法定帳票管理、法定報告等)に係る費用		
	信託事務の処理に関する費用	信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息、信託財産において資金借入をした際の利息		
	組入有価証券取引に伴う費用	組入有価証券の売買の際に仲介人に支払う売買委託手数料等		
	公告に係る費用	信託の受益者に対して行なう公告に係る費用ならびに信託約款の変更または信託契約の解約に係る事項を記載した書面の作成、印刷および交付に係る費用		
	法律顧問および税務顧問に対する報酬および費用	法律顧問ならびに税務顧問等に支払う信託財産に関する法律・税務に対する助言等の費用		
※これらの費用等は、運用の状況等により変動するため、料率、上限等を予め表示することはできません。				

※上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

日本株ロングショート戦略ファンド 愛称「いつつぼし」

追加型投信/国内/株式/特殊型
(ロング・ショート型)

作成基準日：2026年8月31日

ファイブスター投信投資顧問株式会社

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファンドの関係法人

委託会社： 信託財産の運用指図等を行います。

ファイブスター投信投資顧問株式会社
金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第2266号
一般社団法人資産運用業協会会員

委託会社の照会先

ホームページアドレス
<https://www.fivestar-am.co.jp/>
お客様デスク
03-3553-8711
(受付時間：委託会社の営業日の午前9時～午後5時まで)

受託会社： 信託財産の保管・管理業務等を行います。

三井住友信託銀行株式会社
(再信託受託会社：株式会社日本カストディ銀行)

販売会社： 受益権の募集・販売の取扱い、換金(解約)事務、換金代金・収益分配金・償還金の支払い等を行います。

販売会社の名称等

お取り扱い 販売会社一覧		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
日産証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長 (金商)第131号	○		○	○

※加入している金融商品取引業協会を○で表示しています。

※上記の表は、ファイブスター投信投資顧問株式会社が基準日時点で知りうる信頼性が高いと判断した情報等から細心の注意を払い作成したのですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。